

令和6年度 第3回 南陽中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月19日（水） 13時45分から15時30分まで
- 2 開催場所 南陽中学校 会議室
- 3 出席委員 増田哲也・加藤裕之・鈴木和枝・赤星順子・菅野洋子・水野真宏（学校支援コーディネーター兼務）
- 4 欠席委員 増田亜美
- 5 オブザーバー 南陽協働センター 古橋一哲
- 6 学 校 大城定則（校長）・高塚陽子（教頭）・若原昌史（教務）・三高奈緒子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野知子
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター三高奈緒子

10 議長の選出

菅野洋子委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

（1）学校関係者評価

- ・学校の自己評価（結果、分析・考察、改善方策等）の説明
- ・いじめ防止対策基本方針変更点

（2）次年度学校運営の基本方針についての説明

（3）学校運営協議会の自己評価について

（4）夢育やらまいかCS加算分の報告

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価について

① 議長の指示により、学校関係者評価について、教務主任から説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・自主的な思いを持った子供は多いと感じたが、それを行動に移せるかどうか。そこでちょっと後押しがあると生徒たちの自己評価が上がると思う。後押しをする保護者が子供をまず肯定をしないといけない。保護者に向けたメッセージが送られるとよい。（水野委員）
- ・生徒も保護者も、学校というよりも家庭での過ごし方で数字が低い。家庭に帰った後の時間の使い方について家庭や学校で話し合い、他の人のアイデアをもらって、自分を律して前向きな方向にもっていききっかけになるような場があるとよいと思う。（鈴木委員）
- ・評価が6割の「子供の興味意欲を高める授業になるよう工夫しているか」を充実させることにより子供が自主的に勉強しようという気持ちになるのが一番だと思う。（増田委員）
- ・保護者は授業や先生方の手助けをどの程度見たかは分かりませんが、子供に応じた学習の手助け、意欲を高める授業は、数字的にはあまり良くない。でも子供たちの数字を見れば結構先生方も一生懸命頑張っているのではないかと思う。数字の低い所ではなく、生徒のよいところをもっと伸ばすのが大事。全体的には落ち着いたよい子供たちだと思う。（加藤委員）
- ・8割強の家庭でいい中学校に通っていると思ってもらっているのかなと思い嬉しい。生徒の評

価の「理想とする生き方、やりたい仕事をもっている」が76%。もっと夢いっぱいいてほしい。大人も不安もあるけど人生は素晴らしいと伝えていけるとよいと思った。(赤星委員)

②議長の指示により、いじめ防止対策基本方針の変更点について、生徒指導主事から説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 発見が非常に難しいと思う。認知したすべてが子供の訴えから認知されたのですか。(加藤委員)
  - 子供の訴えと保護者からの訴えもあった。認知したのも氷山の一角だと思う。(生徒指導)
- ・ 先生が子供たちの様子を見ているだけでは発見できなかったのですか。(加藤委員)
  - やはり賢いというか僕らの目の前ではやらない。年間5回あるアンケートから訴えが出ることもある。(生徒指導)
  - 周りの子が心配して、アンケートに書いてくれる子もいる。本人に確認すると困っている子もいれば、全然何とも思っていない子もいる。名前が挙がった場合は担任が全部聞き取りする。(校長)
- ・ 周りの子が味方になってという、南陽中のよさが、いじめの発見にもつながっているのは、少し安心した。先生と保護者と子供が、信頼関係が築けていることが大事。(赤星委員)
- ・ 先生方の初動が速いということが安心した。子供たちに対して子供たち自身がいじめについて語り合う場やセミナーなど具体的に取る時間を取っていますか。(増田哲也委員)
  - いじめをピンポイントで扱うのは全校ではやっていない。担任の語りかけや行事なども通し心の耕しをどの先生もやってくれてはいる。道徳で扱うこともある。(生徒指導)
  - 浜松市では6月12日の「いのちについて考える日」がある。今年本校2年の職員は朝からみんなピンクシャツを着て、子供達が「何だ、これは!?!」「校長先生までピンク!?!」となり5時間目の道徳の時間に、実はピンクシャツデーといういじめ反対運動があるという話からいじめについて考える機会をもった。(校長)

## (2) 次年度学校運営の基本方針について

議長の指示により、次年度学校運営の基本方針について校長から説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ コミュニケーション能力を育てる、指導の方法を研修することも大事だと思った。(加藤委員)
  - ・ 子供たちに希望を持ってもらえるような、子供たちがまだ知らない世界の話を、外部の方から聞く機会をぜひ増やしてほしい。(水野委員)
  - ・ ちょっとしたことでも学級に戻れないという話があったが、今の子は心が弱い感じがする。(加藤委員)
  - ・ 今学校のやっている取り組みを、お便りだけでなく、動画など、もっと親に伝わる方法で伝えてほしい。伝わると親の見方が変わると思う。社会に出ると、成績よりも人間力が求められる。そこを家庭で育てるには、親を教育してほしい。(増田哲也委員)
  - ・ 少子化で親が過干渉になっている。親の考えを押し付けるのではなく自分で答えを導きだせるように、子供の話の突き詰めて聞くようにするのが大切。(菅野委員)
  - ・ 小学校1年生の親を対象とした家庭教育講座があった。参観会後の懇談会なども、親同士話をして顔見知りになり、その後も連絡や相談がしやすい。限られた時間の中ではあるがやっていくと親も安心。生徒も親も学校も同じ方向を向いて育てていけるとよい。(鈴木委員)
- 協議の結果、全員意義なく学校経営方針案を拍手で承認。

### (3) 学校運営協議会の自己評価について

学校運営協議会の自己評価について、議長の指示により増田哲也会長から説明があり、委員からは以下の通り発言があった。

- ・ 昔はうちの会社では離職率が高かったが、補助金を出し、飲みニケーションを復活させたら、離職率がかなり減った。飲み会が不平不満を言える場であり、それをみんな聞き流している。先生達、保護者達のコミュニケーションがとれて相互理解が深まる場があるとよいと思う。(水野委員)
- ・ できる範囲で先生の立場や思い、親の気持ちも聞く対話の場があるとよい。今年度文章で発信していただいたが、伝わりきらない部分もある。(赤星委員)
- ・ PTAの理事だけがPTAだと思っている保護者が多い。PTA役員になり行事の準備段階から関わり、先生方の思いや準備を知り、子供たちの頑張りも熱い気持ちで見ることができた。関わることで見方が変わる。ボランティアのように、この行事なら手伝える、手伝いたいよっという保護者は結構いると思う。PTAの関りをもうちょっとうまくできないか(菅野委員)
- ・ 僕もPTA会長をやったときに、マニュアル通りで変える暇もなく、生み出すだとか発展させる取り組みがなかったのが非常に不完全燃焼でした。ただPTAの関わりを増やそうとすると先生の負担が増えてしまう。(増田哲也委員)
- ・ コロナでいろんな行事が無くなり、懇談会も学校側が復活させても、行かないことが当たり前になっているところがあるかと思う。(赤星委員)
- ・ 保護者が一番多く参加する行事は、文化発表会と体育大会だが、文化発表会は入れ替わりで、体育大会も全員来るわけではない。そこに来れない保護者にも伝えたい。(増田哲也委員)
- ・ 生徒と教師の人間関係がうまくいっている時は、保護者ともうまくいく。学校としての働きかけのひとつは、まず生徒との人間関係をよい関係にすることが第一。その上で、保護者とどうかという話。その根底は子供たちとの人間関係の構築。(加藤委員)
- ・ 以前は卒業式の後、保護者と先生の謝恩会があった。(菅野委員)
- ・ PTAの役員決めを見に来る方やリモート配信の視聴率も、少なかった。(赤星委員)
- ・ 家庭の理解、学校側からの方針の伝え方というところですが、どう伝えていくか、“伝える”ということが重点かなと皆さんの話を聞いて思った。(増田哲也委員)

### (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

年度初めに、夢育やらまいか事業に対する意見書を出させていただいた。夢育やらまいか事業にCS加算分として6万円いただいている。未来授業の運営費や高校の先生方の講話やミニ授業への謝礼、全国凧揚げ大会に向けて凧を作る材料費、鼓星の指導者への謝礼として運営させていただいた。夢育やらまいかとCS加算分と、どちらの活動か線引きができないので、金額的には多くなっているが、加算分は確実に活用させていただき、子供達には有意義な活動になったのではないかと思う。(教頭)

### 13 学校支援コーディネーターからの報告

学校、先生に連絡させていただいた。他校の学校支援コーディネーターとグループラインで繋っており、他校で起こった事象を共有している。こういった情報をこれからCSの立場の中、情報展開していくような仕組みづくりが必要だと感じた。(水野委員)

### 14 その他連絡事項

司会から次回会議は令和7年5月29日(木)会議室で開催する予定の旨の報告があった。